



# 白 門 板 橋

2001. 9. 10 VOL.16

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部  
発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL 03-3550-3300



## 「定時総会」あいさつ要旨 支部会員の活躍に拍手と声援を

支部長 小日向 孝介



\*\*\*

本日皆様には、都議選を明日に控えて何かと多用のところを定時総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

学員会本部から長田先生、また支部の石塚、小野田両顧問はじめ先輩役員のご光臨をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて昨今の学員の動向をみますと、中央政界に五名が閣僚として参画した前内閣と異なり、ほぼ連日マスコミの話題を独占している小泉内閣に、本学出身者が見当たらないのは誠に残念に思います。しかし、派手さはありませんが、正に二十一世紀日本の扉を開くといわれる司法制度改革について、審議会メンバー十二名中二名が本学出身者であったことは、必ずや後世にその名が残るものと確信しております。

反面、当板橋地区における学員の活動は極めて顕著で、かねてから石塚輝雄顧問が地方行政トップの区長としてその重責を果たしておりますが、今般、菅東一会員（常任幹事）が、区議会議長に選任されました。本人はもとより、支部にとりまして誠にめでたいことで、他の学員議員ともども五万区民のため、生活の擁護と福祉の向上にご尽力いただきたいと思います。

その他、別掲の通り公職に就任された会員も多く、各位のご活躍をお祈り申し上げます。

最後に当支部の一年を回顧致しますと、各位のご協力ではぼ事業計画を予定通り終了することができました。厚くお礼申し上げますと共に、本年度も引き続き温かいご支援をお願いし、皆様のご健勝を祈念してご挨拶と致します。

# 支部ニュース

## 定時総会に六十九名が集う

校歌のBGMが流れる中、平成十三年度の定時総会が、去る六月二十三日(土)午後六時から区立文化会館大会議室で開かれ、六十九名の会員が集いました。

小日向支部長に母校の動向と支部一年の事業活動の報告を兼ねた挨拶をいただいた後、議事に入り全議案が承認可決されました。



総会を終えて記念撮影

記念撮影を経て懇親会に移り、長田顧問に挨拶をいただき、小野田顧問の発声で声高らかに乾杯。

懇談の合間に、初参加の会員の自己紹介があり、場内から盛大な拍手が送られました。都議戦演説最後の日とあって、喧騒の町中とは違う文化会館の中は、学員同士

の交流と友情を育むなごやかな空気が満ち溢れていました。最後は恒例の「校歌」「惜別の歌」を全員が肩を組んで斉唱し、散会しました。(池田記)

## 茂呂山公園で支部観桜会

支部恒例の行事となった観桜会が、今年は大谷口ブロックの当番で去る四月八日(日)区立茂呂山公園に三十二名が参加してにぎやかに開かれました。

会場の茂呂山公園は、桜の名所であると同時に、史跡としても有名なだけに混雑が予想されましたが、当番ブロックの周到な事前準備のお陰で良好な場所に陣取り、ガスボンベで煮込んだおでん料理の鍋やコップに舞い散る桜吹雪が

### 支部連絡会の当番支部に

学員会の東京都区内支部連絡会が、板橋区支部の当番で十月二十七日(土)午後六時から、区立文化会館で開かれることになりました。

当日は都区内支部から約五十名の出席者が見込まれ、各支部の情報交換と交流が図られますが、多数の会員の出席をお願いいたします。(事務局)

### 秋の旅日程決まる

支部恒例の行事・秋の旅行会の日程等が、次のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

- 日時 十一月十七・十八日
- 旅行地 福島・母畑温泉
- \*詳細は同封の案内書を参照
- 集合場所 産文ホール前
- \*午前七時三十分迄に集合
- 参加費 一九、五〇〇円
- 世話役 近藤・川崎・三宅
- 申込み 十月十五日(月)
- 同封の「申込み書」で、三宅宛郵便又はFAXで

### 新年会の日程決まる

- 日時 一月十八日(金)六時
- 会場 区立文化会館

### 年会費納入のお願い

平成十三年度の年会費が未納の方は、納入下さるようお願い致します。(久米)



桜吹雪の中で楽しい宴

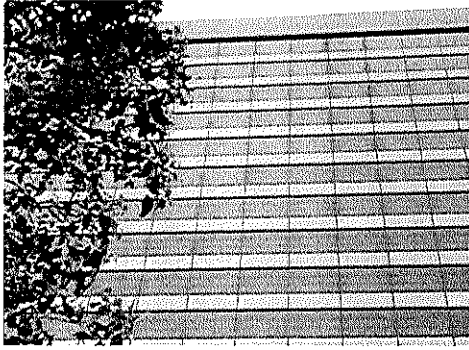
# 母校・学員ニュース

東京高検検事長に

## 松浦 恂氏が就任

\*\*\*

中大はこれまで多くの検事長を輩出してきたが、いずれも地方の高検検察庁で大阪高検までと言われ、東京高検検事長のポストは、中大OBにとって無縁であった。今回の法務省人事で、37年卒業の学員が就任したことで、林穂二郎(故人・元中大総長)氏以来といわれる検事総長への期待が高まった。



写真は東京高検が入居する法務省合同ビル

ったことになる。

また同時に、宗像紀夫(40年)氏が高松高検検事長となり、これで全国の半数の検事長を中大OBで占めることになった。

## 学員会本部幹事に

岩澤忠弘氏選任される

\*

母校・学員会本部の幹事に、平成十三年六月一日付で、当支部の岩澤忠弘氏(副支部長)が選任されました。

## 学員会協議員に六氏選任

\*

母校・学員会の協議員に、平成十三年七月一日付で、当支部から次の六氏が選任されました。任期は三年。(敬称略・記載順不同)

- 小野田 元(顧問) 再任
- 栗原 泰房(監事) 再任
- 森 英正(監事) 再任
- 池田 亘利(幹事長) 新任
- 中路 義雄(常任幹事) 再任
- 永江 益雄 再任

## 中大野球部一部に留まる

□□□□□□□□

東都大学野球春季リーグ戦は、攻守の中心だった阿部慎之助選手(捕手・四番)がプロ入りした穴は大きく、予想した通りに苦戦の連続で勝ち点一で終わったが、勝率でわずかに東洋大学を上回ったため、一部にとどまった。

昨秋優勝した東洋大学も戦力を落とすため最下位に転落したものの、入れ替え戦に勝って一部に残留した。

東京六大学とは異なる勝負の世界の厳しさを見せつけられたが、秋季リーグ戦での捲土重来を期待したい。

世界水泳選手権で

山野井選手が銅メダル

去る七月二日から福岡で開かれた世界水泳選手権大会に、OBを含む六選手が出場したが、期待の中村、源の女子選手がふるわず男子の山野井智広選手(平12)の銅メダル一個にとどまった。

(栗原記)

## 訃報

謹んでお悔やみ申しあげます

\*\*\*

- ▼白井 夏雄 24年法
- ▼四月二十三日逝去
- ▼板橋区成増三ノ二ノ一八 二〇五号
- ▼崎田 直次 27年法卒
- ▼五月 九日逝去
- ▼板橋区赤塚二ノ一六ノ一八 中央大学名誉教授
- ▼矢吹 尚武 28年法卒
- ▼五月十七日逝去
- ▼板橋区支部・幹事

## 会員の消息

(敬称略・記載順不同)

□□□□

- ▼板橋法人会員
- ▼川口 正(再任)
- ▼宅地建物取引業板橋支部長
- ▼宮塚 文生(再任)
- ▼土地家屋調査士会板橋支部長
- ▼中二川 孝幸(新任)

# 定時総会決議事項

第十二回・定時総会の決議事項を次のとおり報告致します。

## 第一号議案

平成十二年度・事業報告

大野事務局長から次のとおり報告されました。

\*\*\*

四月 一日(土) 支部観校会

於/区立加賀公園 35名

四月 二五日(土) 囲碁部月例会

於/西池囲碁サロン12〜14名

以後、毎月第三土曜日開催

四月 一八日(金) 15名

第三回・カラオケの集い

於/スナック・フジハナ

五月 一九日(金) 常任20幹事45

常任幹事会&幹事会

於/区立産文ホール

五月 二四日(水) 6名

文化講演会準備会議

於/菅 東一事務所

六月 二三日(火) 18名

正副ブロック長会議

於/文化シャッター研修所

六月 二四日(土)

文化講演会 128名

第二回・支部定時総会 80名

於/区立文化会館大会議室

七月 二二日(水)

会報編集会議

於/日本シャッター協会 5名

七月 二四日(金)

常任幹事会 26名

於/サンイチ

八月 三三日(水)

会報『白門板橋』及び旅行案内

書発送業務 12名

於/常盤台一・二丁目集会所

九月 七七日(木)

ゴルフコンペ 18名

於/錦ヶ原ゴルフ場

九月 一七日(日)

杉並区支部五周年記念行事に

出席 4名

一〇月 二三日(金)

第四回・カラオケの集い

於/スナック・フジハナ

一二月 一七日(金)

墨田区支部総会に出席 1名

一二月 一八〜一九日(日)

「秋の上州を訪ねる旅」

一二月 二〇日(月)

学員会都区内支部連絡会

於/銀座レストランサンミ高松

一二月 六日(水)

新年会準備会議

於/文化シャッター研修所

平成一三年

一月 二九日(金)

新春の集い 81名

於/区立文化会館大会議室

一月 二四日(水)

会報編集会議

於/文化シャッター研修所

二月 二日(金)

観校会準備会議(大谷口B)

於/スナックふる里

二月 一七日(火)

会報編集会議

於/グランドアーク半蔵門

三月 二三日(火)

会報及び観校会案内発送業務

於/文化シャッター研修所

三月 三三日(金)

ゴルフコンペ

於/錦ヶ原ゴルフ場

平成12年度・収支決算報告書

(自平成12年 4月 1日〜至平成13年 3月31日)

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
年会費	720,000	696,000	▲ 24,000	3,000 × 232名
総会費	560,000	583,000	23,000	7,000 × 77名 寄付金50,000円
旅行会費	840,000	899,000	59,000	28,000 × 28名 13,000 × 2名 追加会費34,000 寄付金55,000円
観校会費	150,000	142,000	▲ 8,000	4,000 × 35名 寄付金 2,000円
新年会費	560,000	577,000	17,000	7,000 × 81名 寄付金10,000円
常任幹事会費	100,000	52,000	▲ 48,000	2,000 × 25名
幹事会費	80,000	88,000	8,000	2,000 × 44名
補助金		300,000	300,000	中央大学
受取利息	1,000	16,551	15,551	郵便定期貯金 満期解約
前年度繰越金	1,883,765	1,883,765	0	
計	4,894,765	5,243,416	348,651	

【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
総会費	560,000	579,750	19,750	文化会館 6/24
旅行会費	840,000	920,294	80,294	伊香保11/18・19
観校会費	150,000	125,075	▲ 24,925	加賀公園 4/1
新年会費	560,000	483,983	▲ 76,017	文化会館 1/19
常任幹事会費	100,000	76,560	▲ 23,500	産文ホール5/19 サンイチ 7/14
幹事会費	80,000	89,000	9,000	産文ホール5/19
印刷費	230,000	232,567	2,567	年2回発行
印刷費	50,000	33,600	▲ 16,400	支部封筒印刷
通信費	100,000	99,900	▲ 9,100	会報送料 8-3月
会議費	60,000	60,527	527	文化研修所
事務所費	60,000	0	▲ 60,000	
事務用品費	30,000	0	▲ 30,000	
版印交際費	100,000	133,750	33,750	他支部総会出席 及自己費 田巻、村秋、167 年会費返金料 宇橋講演会6/24
同好会補助金	50,000	30,000	▲ 20,000	
手数料	10,000	8,560	▲ 1,440	
講演会補助金	0	300,000	300,000	
雑費	20,000	20,900	900	
予備費	1,894,765	2,048,010	153,245	
計	4,894,765	5,243,416	348,651	

貸借対照表  
(平成13年3月31日現在) (単位:円)

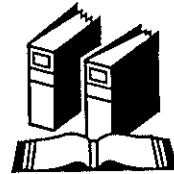
資産の部			負債・剰余金の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
現金	手元有高	0			
郵便貯金口座	3-568929	450,080			
郵便貯金	69516001	460,530			
郵便定期貯金	3728043	72,000			
前渡金	6月総会会費	65,400			
	10月都区内支部				
	連総会会費		繰越剰余金		1,883,765
投資有価証券	中大学債	1,000,000	当期剰余金		164,245
計		2,048,010	計		2,048,010

以上のとおり決算報告致します。

平成13年6月23日  
支部長 小日向 孝介  
会計 久米 英雄 益田 木治

以上、支部決算につき監査の結果、適正かつ適法に表示していると認めらる。

平成13年5月11日  
監事 栗原 泰房 坂井 健二 森 英正



第二号議案

平成十二年度・収支決算報告

益田会計幹事(常任)から別表のとおり詳細に報告された後、監事を代表して、栗原(泰)監事から監査報告があり、異議なく承認されました。

\*\*\*

第三号議案

平成十三年度・事業計画(案)

大野事務局長から次のとおり説明があり、承認されました。

一、定時総会&懇親会の開催

二、親睦会の開催

・観桜会

(四月八日 茂呂山公園で済)

・旅行会(秋)

・新年会(平成一四年一月)

・他支部との交流

・都区内支部連絡会の当番

(一〇月)

\*実行委員会を組織して対応

四、支部会員名簿の発行

\*ブロック別に掲載する。

五、会員増強運動

\*継続して展開する。

六、同好会活動の促進

・囲碁同好会(毎月第二土曜)

- ・ゴルフ同好会(三・九月)
- ・カラオケ同好会(五・十月)
- ・パソコン同好会(七月)
- 七、広報活動
- ・会報発行(三・九月)
- ・中央大学学員時報への寄稿
- ・都区内支部へ会報送付

第四号議案

平成十三年度・収支予算(案)

益田会計幹事から、別表のとおり説明があり、異議なく承認されました。

第五号議案  
役員一部選任の件

水野副支部長が健康上の理由で辞任された後任人事と、常任幹事の欠員補充のため、その選任方法が議長に一任され、次の会員が議場に諮られて、承認されました。

記

(敬称略・記載順不同)

▽副支部長 栗原 三郎

▽常任幹事 徳永 勝彦

▽同 櫻本 都行

なお、任期途中の選任であるため、三氏の任期は前任者の残存期間一年となります。

以上

【支出の部】 (単位:円)

科目	金額	備考
総会会費	525,000	
旅行会会費	640,000	
観桜会会費	175,000	
新年会会費	550,000	
常任幹事会費	100,000	
幹事会費	88,000	
会報制作費	230,000	年2回発行
印刷費	50,000	対開、会議資料
会員名簿印刷費	100,000	
通信費	100,000	会報送料他
会議費	100,000	役員会議
事務所費	60,000	
事務用品費	30,000	
庶務交際費	150,000	5,000×20名
		50,000×3支部
支部連絡会費	50,000	
同好会補助金	50,000	囲碁、麻将、他
		各10,000円
振込手数料	10,000	
雑費	20,000	
予備費	1,848,010	
計	5,086,010	

平成13年度・収支予算(案)  
(自平成13年4月1日~至平成14年3月31日)  
【収入の部】 (単位:円)

科目	金額	備考
年会費	705,000	3,000×235名
総会会費	560,000	7,000×80名
旅行会会費	840,000	28,000×30名
観桜会会費	175,000	5,000×35名
新年会会費	550,000	7,000×80名
常任幹事会費	100,000	2,000×25×2
幹事会費	88,000	2,000×44×2
寄付金	0	
受取利息	10,000	中大学債他
前年度繰越金	2,048,010	
計	5,086,010	

HOME・COMINGDAY  
10月28日(日)

# 北方文学ひろい読み



「擬態」(きたい)

発行所/株式会社文藝春秋

ハードボイルド文学のはしりは何といっても北方謙三だろう。

今春、四月に発行された新作だが、彼の作品を読むのは初めてである。感情を交えず客観的な態度

・文体で対象を描写する小説で、冷酷で非情な筆致は、読んでいて確かに面白い。北方謙三文学に中途入門するには格好の書。

〜中略

タクシーで、渋谷まで行った。電車で帰るつもりだったが、なんとなく立原は歩きはじめ、看板が目についたバーに入った。カウ

ンターだけの小さなバーで、男が二人飲んでいた。

ウイスキーを五、六杯飲み、外に出るとまた歩いた。二軒目では三杯しか飲まなかった。

〜中略

腹が減っているのを思い出し、

トンカツ屋に入って、ヒレカツの定食をつめこんだ。

また酒が飲みたくなった。

歩いて行くと屋台が並んでいて

そこでコップ酒を三杯飲んだ。それで、酒はもういいという気分になった。

〜中略

うしろに四、五人いるが、前の方には人通りがなくなつた。速くにラブホテルのネオンが見えていく。

「ねえ、おじさん」

背後から声をかけられた。四人だった。立原のあとをつけてきた



ようだ。二人が前に回った。

「二万円、貸してくんない？」

金髪の男が言った。いくつぐらいか、見当はつかなかった。

〜中略

金髪が、バタフライナイフを出し、

器用にくるくると回した。もうひとりには、鉄パイプだった。背後の二人は素手のようだ。

〜以下略

\*

作家・北方謙三は、学園紛争たけなわの昭和四十八年の三月に、レポートで卒業した学員である。

体制に危機感を抱いて、キャンパスに築かれたバリケード越しに火炎ビンを投げ合った学生の一人であつたことを思えば、今の時代の「絶望」を小説に名を借りてブチまけようとする試みだとすれば納得できるものはある。しかも、

団塊の世代に生まれた彼らは、多くの競争者の中で生き残るためには、肉体も精神も強靱に鍛えることが必要なことも教えてくれる。

小説のストーリーもさることながら、「なぜハードボイルドなのか？」が、理解できる書である。

(平山記)

大相撲七月場所

中大出身力士の星取表

〇●〇〇

## 出島関

無念の休場

玉春日関が善戦勝ち越し

\*

▽出島(武蔵川)

本名・出島武春 平8卒

西大関 三勝二敗九休

▽玉春日(片男波)

本名・松本良一 平6卒

東前頭7枚目 八勝七敗



▽若孜(松ヶ根)

本名・中尾浩規 平7卒

東前頭14枚目 七勝八敗

▽田中(友綱)

本名・田中康弘 平10卒

幕下西3枚目 一敗六休

\*

◎七月場所は、出島関以下

全関取が苦戦し、玉春日関のみ千秋楽に勝ち越し、本学出身力士には苦しい場所だった。

(池田記)

■根津財閥が開発

「常盤台」の地名は、東武・東上線のときわ台駅（旧武蔵常盤駅を昭和二十六年に改称）に隣接する天祖神社境内の常盤松に由来するという。

地名の由来…⑧

「常盤台」の巻

に伴う操車場用地として買収していた。

東武・東上線は、明治二十六年に志村の内田三左衛門が中心になって計画し、申請した東上鉄道株式会社が、大正三年に設立されたものを東武鉄道が大正九年に合併してできたものだが、当初は物資運搬に重点がおかれ、乗降客は少な



写真は「常盤松」天祖神社提供

は、田園都市株式会社が発議していた大田区の洗足と多摩川台（田園調布）からの影響が色濃く見られる。例えば、建築規則に定める敷地面積に対する建坪の割合、隣地境界線との距離、高さの規制等がある。

■知識階級の人々が移入

常盤台住宅地の特長は放射線と同心円の街路計画、クルドサック（袋小路）、ロードベイ（道路沿いの修景緑地）、プロムナード（並木を道路中央に配した遊歩道）等々に現れている。また東武鉄道は、この地を交通の便の良さや電気、ガス、上下水道（特に下水に関しては、全て暗渠にした）の完備により、衛生的であることなどを宣伝し、理想的な健康住宅地として売出した。こうしてできた常盤台の住人は、どういう人たちであったかという点、会社役員が五〇％、会社員二〇％、官吏等八％に議員が五％という資料があり、会社や工場を経営していた人が土地を購入したようであり、いわゆる知識階級の人々が住み着くようになったといわれている。（中三川記）



\* 編集後記 \*

●全国高校野球が終わった。今年も数多くの熱戦が繰り広げられ、若き青春時代の郷愁を誘われた。母校や出身地の高校が出場すれば、応援したくなるのは人情だ。しかし、出身地に関係なくスカウトされて野球留学するケースが多いというから、高校野球も衰退して行くのは間違いない。●花の生命は短い。人間の生命も短い。長寿・高齢化の時代といわれても、昨年の花見の宴で高々と杯をあげた先輩の姿が今年はない。●小泉内閣の閣僚に字員の名が少ないのを寂しいという者もいるが、政界で活躍するより法曹界や実業界で活躍する方が、中大の建学精神に合っている。東京高検の松浦検事長は、今号で紹介した支部の「会員」と同じ卒年だ。●「もう歳だから」といわずに、高校野球に元気をもらい、頑張るって欲しい。そして、お互いに一度しかない人生を楽しく生きて行こう。（H編集子）

この地は現在、「板橋のお屋敷町」といわれているが、明治・大正時代は大根畑であった。常盤台の住宅地は、東武鉄道（社長：根津嘉一郎）が東上線と伊勢崎線の接続（実現しなかった）

この最初の具体的な事例が、常盤台住宅地であった。この計画に

とを計画した。